

# 個に応じた実践的な教科指導法に関する研究

- 小学校 社会における話し合い活動を重視した指導 -

穂坂 明 範<sup>1</sup>

個に応じた指導の充実が求められる中、少人数指導や習熟度別学習についての研究は数多くなされているが、小学校における学級担任のみでの指導についてはあまり行われていない。そこで、本研究では、小学校の社会における発話分析による授業分析法を取り入れた指導法を考え、課題発見や調べたことのまとめの段階での話し合い活動の質を高めることが、個に応じた指導に結びつくことを明らかにした。

## はじめに

平成15年12月の小学校学習指導要領の一部改定において、第1章総則、指導計画の作成に当たって配慮すべき事項の2(5)に「各教科等の指導に当たっては、児童が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師の協力的な指導など指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図ること。」とあるように、個に応じた指導の一層の充実が求められている。しかし、学習形態を中心とした研究や実践は多く行われているが、指導者一人で、授業を行う最も一般的な形態における個に応じた指導についての研究はあまり行われていない。

## 研究の目的

小学校社会においては、個別の調べ学習や集団での話し合い活動などが学習の中心である。個に応じた実践的な指導の実現のためには、話し合いの中で、児童一人ひとりの発言に注目する必要がある。そこで、発話分析の手法を取り入れた教科指導法について研究する。調査研究協力員が全員5年生の担任であり、授業を行う時期も同じであったので、自動車工業に関する単元について指導計画を作成し、授業実践を行い、検証を行った。

## 研究の内容

### 1 発話分析による授業分析

教師と児童の会話や児童同士の話し合いは日々の授業の中で、恒常的に行われている。教師は児童の様々な発言を聞き、優れたものについては「今の

良い発言だね。」といった評価をする。しかし、その評価は前述のように漠然とした抽象的なものに終わってしまうことが多い。発言の内容が優れていたのか、大きな声で言えたことが良かったのか、教師が具体的に指摘しなければ、児童には何が良かったのかが全く伝わらない。話し合いの質を高めていくためにはどのような発言が優れた発言なのかを教師が認識し、そのような発言ができるよう児童を指導するという営みを積み重ねていく必要がある。全体的な指導と同時に、一人ひとりの個に応じた指導も行っていくことで質の高い学習の展開が期待できると考える。

そこで、発話を第1表に基づいて分析をしていくこととした。

第1表 発話の質的分析カテゴリー（2005 高垣）

カテゴリー		分類基準
1 表象的 発話	a 課題の提示	話し合いのテーマや論点を提示する。
	b フィードバックの要請	提示された課題や発話内容に対して、コメントを求める。
	c 正当化の要請	主張内容に対して、正当化する理由を求める。
	d 主張	自分の意見や解釈を提示する。
	e 言い換え	自己の主張や他者の主張と、同じ内容を繰り返して述べる。
2 操作的 発話	a 拡張	自己の主張や他者の主張に、別の内容を付け加えて述べる。
	b 矛盾	他者の主張の矛盾点を、根拠を明らかにしながら指摘する。
	c 比較的批判	自己の主張が他者の示した主張と相容れない理由を述べながら、反論する。
	d 精緻化	自己の主張や他者の主張に、新たな根拠を付け加えて説明し直す。
	e 統合	自己の主張や他者の主張を理解し、共通基盤の観点から説明し直す。

特に、操作的発話が優れた発言であるといえる。この手法を、授業分析に活用するとともに、児童にも分かりやすい言葉で理解させることで教師も児童も発言の質に意識をしながら学習を展開できると考

えた。また、話し合い活動は、学習段階のどの場面で行うのかにより、その目的や手立ても変わってくると考えた。

そこで、課題を明確にするための話し合い活動を中心とした展開（授業実践1）、問題解決のための話し合い活動を中心とした展開（授業実践2）、自分なりの考えを深める話し合い活動を中心とした展開（授業実践3）の三つの視点で授業実践を行った。

## 2 授業実践1 「課題を明確にするための話し合い活動を中心とした展開」

### (1) 単元目標

各実践に共通した単元目標は次のとおりである。

- ・自動車工場や自動車生産の様子について調べたり見学したりして、自動車生産に関わる人々の願いや努力、工夫などについて理解を深め、その現状と課題をとらえることができる。
- ・写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、活用しながら考えることができる。

### (2) 単元について

本単元の学習では、工業生産に携わる人々も願いを持ち、工夫や努力を重ねてきていることに気付かせたい。その上で、日本の工業の現状や課題について考えていくようにしたい。

自動車は、児童にとって身近なものであるばかりでなく、多くの部品から作られ、何気なく目にしていることの奥に様々な工夫が隠れている。また、利用する人や環境との関わりについても目を向けやすい教材である。比較的近くに自動車工場があり、毎年5年生は見学することができる。児童にとっては初めての工場見学でこれを楽しみにしている。教科書や資料集などの手持ちの資料から得た情報を整理し、個々の児童の興味や疑問を学級みんなで共有しながら、工場見学の課題づくりを行いたい。事前の学習で児童のモチベーションを高め、この工場見学を学習の展開に有効に利用できるよう指導計画を立てた。

まず、自動車について知っていることを自分と関連付けてウェビングすることにより、自動車に対する興味や考えをはっきりさせることから始めた。これにより、日常、自分が車に乗っているにも関わらず、その便利さよりも、環境に悪い、事故が多い、などの悪いイメージを車に対してもっていることが分かった。お互いの考えを出し合っていく中で、「みんなが暮らしやすい未来のために必要なことは何か。」と言うことを本単元を進めていく上での大きな課題とすることにした。児童にとって悪いイメージの自動車であるが、自動車生産に関わる人々の願いやそれをかなえるための工夫や努力に気付くことにより、自分の生活がそれらによって支えられていることを知り、とも

に未来を考えていくべきであることに気付いてほしいと考える。

### (3) 指導計画（18時間扱い）丸付き数字は時間数

- ・工業製品と私たちの生活
- ・自動車と私（ウェビング）
- ・課題を整理する
- ・工場の様子と立地条件について調べる
- ・自動車生産の過程や様子について調べる
- ・見学の視点や課題をはっきりさせる

【本時1/3】

- ・自動車工場を見学する
- ・見学から分かったことを整理する
- ・これからの自動車に必要なことについて話し合う
- ・自分の考えをまとめる

### (4) 個に応じた指導について

#### ア 自分とのつながりを意識させる

これから学習しようとしていることが、自分の生活とつながっていることを意識して学習に取り組めるように、初めに、生活の中で使っているものを見直したり、自動車と自分についてウェビングを行ったりした。この活動から感じた疑問を整理して、学習の課題や目的とした。

#### イ 課題をはっきりさせる

一人ひとりの児童が、自分は何を疑問に感じ何を知りたいのかを、自ら意識しながら学習を進められるよう、単元の導入部で学習課題についてじっくり話し合う時間をとった。自分が感じた疑問を発表したり、友だちの考えと比べたりする中で自分の課題をより明確に意識させ、工場見学への期待を高めたいと考えた。また、話し合いによる課題の共有化は、調べ学習への意欲を高め、それに伴う話し合いを活性化させることにつながることを期待した。

#### ウ 共通の資料を中心に話し合う

課題について考えたり話し合ったりする際には、なるべく具体的な資料を基に考えさせたい。そのために、全員が持っている教科書・資料集・地図帳等の資料を中心に学習を進めた。思いつきで発言し考えが深まらない児童も、友だちの意見を資料で確認することにより、思い付いたことを吟味したり、自分の考えの根拠を見つかけたりできるようになると考えた。

#### エ ノートの振り返りから個の感想や考えを生かす

その時間の学習で分かったことや考えたこと、さらにこれから学習したいことなどをはっきりさせるため、毎時間「感想」としてノートに振り返りを書かせることにした。それらの中から児童の疑問や考えを拾い、評価し、次時の学習

に生かせるようにした。児童の思いに沿って柔軟に学習を展開できるよう心がけ、個別の学習が全体に生かされ、全体の学習が個別の学習に刺激を与えられるような展開を工夫したい。また、これにより、よく考えているのになかなか意見の言えない児童の考えを生かす機会となれば良いと考えた。

(5) 本時目標

車体工場や塗装工場の仕事について分かったことや疑問に思ったことについて話し合い、自動車工場を見学する時の視点をはっきりさせることができる。

(6) 本時展開

ア 本時のめあてを確認する。

- ・車体工場や塗装工場の様子を調べて、分かったことや疑問点を出し合って、自動車見学に備える。

イ 車体工場の仕事について調べてみて、予想と違ったことやなるほどと思ったこと、疑問に思ったことなどについて話し合う。

- ・初めは大きな鉄板のロールだった
- ・鉄の板をどうやって形にするのだろう
- ・ほとんど機械やロボットがやっていた
- ・鉄と鉄をどうやってくっつけるのだろう
- ・人は何をやるのかな
- ・塗装には、塗料のプールを通す方法とロボットで吹き付ける方法と二通りある
- ・3回塗るのは何のためだろう

ウ 学習のまとめをする。

- ・工場見学で確かめたいことを確認する
- ・学習の感想を書く

(7) 成果と課題

ア 学習課題についての話し合い

単元の導入部で、自分と自動車に関連づけてウェビングをしてみたことや、その過程で調べてみたいと思ったことや疑問に思ったことを出し合ったことにより、学習の方向をはっきりさせることができた。児童は、「私たちが大人になった時世界の車はどのように発達しているのか(知りたいから)、今の自動車のことを知りたい。」(児童のノートより( )内補足)と、これから学習することの意味も考えることができ、その後の調べ学習の意欲につながったようである。

イ 共通の資料を中心に話し合う

教科書・資料集・地図帳などの共通の資料に基づいて学習を進めることにより、常に資料を見ながら話し合いに参加する態度が身に付いてきた。関連する資料を探しながら、発言したり友だちの意見を聞いたりする児童が増え、「資

料集の何ページに書いてあるから、…」という説明ができるようになってきた。

発話分析は次のとおりである。教科書や資料集等の資料や自分の体験などに基づいた後半のC3やC11の児童の発言により、見学の視点をはっきりさせた様子が表れている。

第2表 授業記録(T:教師 C:児童)

T	それでは、疑問について話し合います。疑問を感じた人？(話題の提示)
C1	一色のときはいいんだけど、違う色を付けたい時はどうするのか。(主張)
T	二色の車ってあるの？(フィードバックの要請)
C2	たまにあるよ。(主張)
C3	でっかい車で、字とか書いてあるやつがあるよ。(拡張)
C4	それは書いてんじゃないの？上から書いたんだよ。スプレーかも。(主張)
C5	字は、シールみたいなのがあるんじゃないの？(主張)
C3	3回重ね塗りするってここ(資料集)に書いてあるじゃん。(精緻化)
C6	どうして3回塗るのかな。(主張)
T	3回塗る訳を知りたいんだね。(正当化の要請)
C2	3回塗るって言うのは、色が落ちないようにするんじゃないの。(主張)
C3	下塗り中塗りに塗り書いてあるから、さっきC2さんが言ったみたいに、一番上はがれても中塗りがあるって下にも下塗りがあるから大丈夫なようにしてあるんじゃないの。(拡張)
C5	車こすっちゃったりすると、下に銀色が見えるんだけど、3回塗ってあっても一気にはがれるよ。(矛盾)
T	3回塗ってあってこすったらすぐにはげるから、はげないように3回塗るんじゃないと思う、ということかな。家の車をこすったことある？その時、すぐにはげちゃいましたか？(正当化の要請)
C7	うん。はげたよ。はげちゃったよ。(主張)
C2	酸性雨で溶けちゃうこともあるかもね。(拡張)
T	3回塗る理由は分からないかな。どこかに書いてないか探してみよう。(フィードバックの要請)
C8	ああ、きれいに塗り上げるって書いてある。(主張)
C9	ほんとだ、教科書64ページに書いてある。(主張)
T	ピカピカツルツルにしたいって言うことかな。(フィードバックの要請)
C10	ああ・・・
C9	二スのようにきれいになるんじゃないのかな。図工で塗った時みたいに。(拡張)
C3	もしかして、3回同じ物を塗っているんじゃないかもしれないよ。1回目と2回目は普通の色で、上塗りは二スみたいなのだったりして・・・(精緻化)
C11	色もちがうかもしれないよ。味を出すために図工みたいに重ね塗りしてるかも。(精緻化)
T	今いくつか予想が出てきたけれど、そうなのかな。みんな納得できた？それとも工場で聞いてみますか？(フィードバックの要請)
C12	聞きたい。どうなのかわりたい。聞いてみたい。(主張)

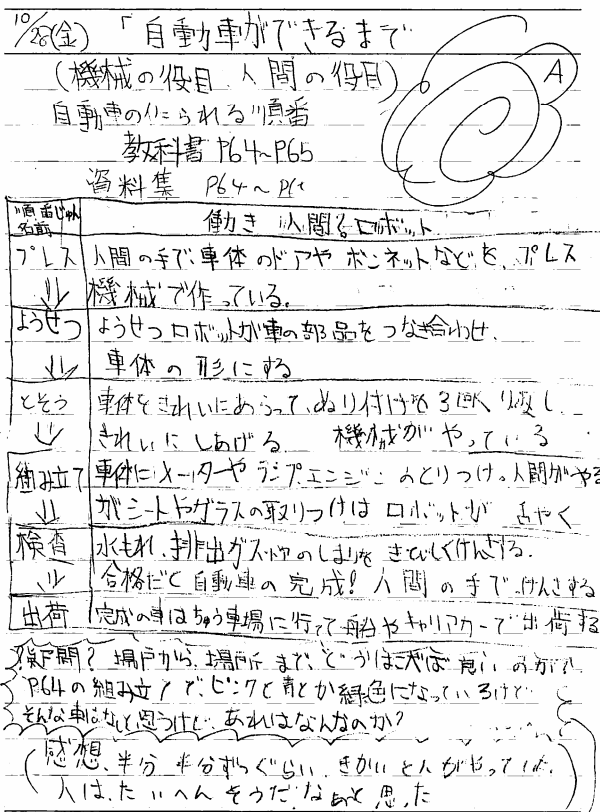
少数ではあったが、インターネットや新聞記事、図書資料などを用意する児童もいた。生ゴミを発酵させて燃料として使えるガスを作り利用する試みが行われているという子ども新聞の記事は、印刷して配付しみんなで読んだが、そのことにより未来の自動車へのイメージが広がったと思う。

ウ ノートの振り返りから個の感想や考えを生かす

毎時間ノートの最後に学習の振り返りを書く時間を取り、そこに出てきた感想や疑問を次時

につなげながら学習を展開し、学級の誰かの疑問を解決する形で授業を進めた。これにより、教師は評価を指導に生かすことができ、児童は問題をより身近に感じながら学習することができた。また、余り発言をしない児童の考えを取り上げて生かすこともできた。(第1図)

毎時間ノートを集めたため、児童はノートを工夫してまとめるようになり、工場見学の課題をはっきりと意識することができた。工場見学においては、案内係の方の話をよく聞き、工場内の掲示物にも気を配りながらメモをとる姿が印象的であった。



第1図 児童のノートより

エ 物から人へ

初めのウェビングから見つけた疑問では、「自動車の原料は何か」「どうやって作っているのか」「環境にいい車はあるのか」「低排出車って何だろう」など、自動車そのものに対する疑問が中心であった。それら児童の思いや疑問をそのまま大切にしながら調べていくうちに、児童は徐々にそこで働く人々の苦勞や願いに目を向けるようになった。工場見学の後に、自動車工場の工夫をまとめた際には、次のような感想が見られた。

・使う人の安全への工夫はけっこういっぱいあって、私たちはそれに守られているから事故にあいにくくなっているんだと思った。

・バリアフリーの車は、障害者の人にとってはとてもうれしいと思います。だって行動範囲が広がるし、どこにでも行けていいと思います。

・これからは、事故や環境、障害者に安心な車作りができればいいと思います。みんなが望めばできると思います。

ノートに振り返りを書かせる際には、「自分との関わり」を意識させるようにした。自動車への疑問から始まり、それら一つずつ解決していきながら、児童は、学習したことと自分との関わりを考える中で、自動車生産に関わっている人々に目を向けることができた。そのことにより自動車を作る人々と自分の生活がつながり、これから共によりよい未来を考え作っていくのだという意識を、5年生なりに持つことができたのではないと思う。

3 授業実践2 「問題解決のための話し合い活動を中心とした展開」

(1) 単元目標

【授業実践1と同じ】

(2) 単元について

児童は3、4年生の学習で自分たちの地域の様子について学んできている。5年生になってからは、地域の生活から日本国民の生活というように、社会事象を見つめるフィールドを広げながら、国土の様子や環境保全についても学ぶことになっている。1学期の食料生産に引き続いて工業生産に焦点を当てる中、本単元は、自動車生産の様子やそこで働く人々の工夫や努力について学ぶことを通して、日本の工業生産の一端をとらえることをねらいとしている。

児童が住む地域は観光産業が中心であり、地形の上からも児童の生活圏が狭いという実態がある。自動車は交通の中心であり、比較的多く利用しているため、その利用価値については非常に実感している。よって、本単元での学習内容については興味・関心を高く持てると思われるが、その学習の中では、工場見学を位置付け、他地域の様子を実際に自分の目で見てくることが大切であると考える。また、食料生産の学習からの継続した意識として、働いている人々は「消費者の健康や安全、自然環境の保護を意識して仕事をしている」ということが挙げられる。このことは、本単元でも、問題作りや人々の努力や工夫の話し合いの中で意識されるものであると考える。学習のつながりとして大切に扱っていきいたいと思う。

今回も一人調べを生かした問題解決学習を展開していきたいと考えるが、本単元は問題を解決するための資料が比較的豊富であるために、調べ活

動がある程度充実してくると思われる。ここでしっかりと学び方を身に付けるとともに、分かったことから自分なりにどんなことを考えたかを出し合い、自分たちの暮らしを高めていこうとする心情を育てていきたいと考えた。

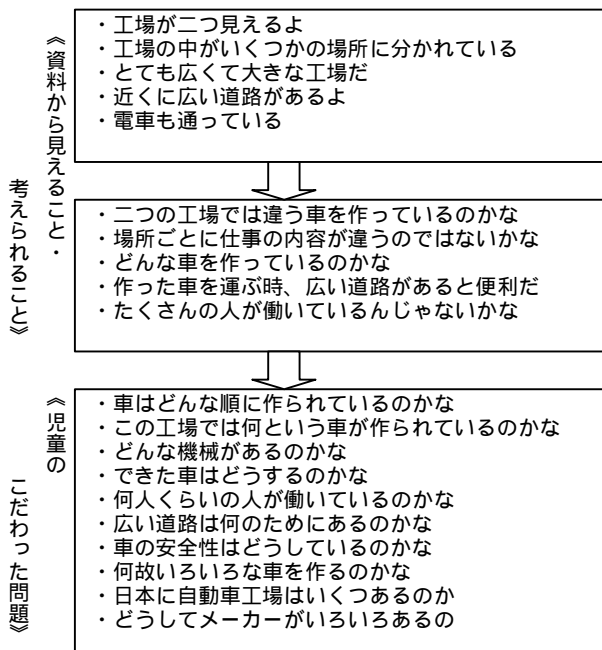
(3) 指導計画 (19 時間扱い)

- ・資料を見て考えよう (見えること、考えられること)
- ・疑問に思ったことや調べてみたいことを考えよう
- ・話し合いの柱を立て、自分の問題についての予想を立てよう
- ・自分の問題について、一人調べをする
- ・自動車工場を見学しよう
- ・自分の問題について、一人調べをする
- ・自動車ができるまで
- ・関東自動車工業の様子
- ・消費者のことを考えた車作り
- ・関連工場と協力した車作り 【本時】
- ・日本の自動車生産の様子
- ・学習して分かったことをまとめよう

(4) 個に応じた指導について

ア 個のこだわりを生かした問題解決学習

第 3 表 問題作りの流れ



自動車の生産の様子について、学級で決めた共通問題を調べていくのではなく、自分が調べたいと思った事柄を複数の問題として持って、一人で解決していくこととした。このような学習過程を取ると、関心が薄い学習内容について十分な思考がされないのではという心配もあるが、二つ目のでだても含めて追究段階を工夫することによって解決できると考えた。

今回の学習の「問題をつかむ」段階では、自

動車工場の地図 (工場敷地と工場周辺が記載されているもの) を資料として、問題作りを行った。

「追究段階」では、このような個がこだわった問題を一人調べとして問題解決させていくことにした。途中に自動車工場の見学を設定し、実際の様子を自分の目で見て理解を深めたり、これまでの調べで分からなかった点について質問したりして、解決を進めることができた。

イ 自分たちの考えのつながりを意識させることを生かした話し合い

第 4 表 話し合った内容

《関連工場の人々の立場で》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注文通りに間違えずに部品を作ろう</li> <li>・うちで作った部品を使った車が売れて欲しいな</li> <li>・部品は時間通りに届けよう ：組み立て工場からまた注文してもらえよう</li> <li>：信頼を得て、お金がもうかるよ</li> <li>・関連工場の仕事をしっかりとやってもらいたい</li> <li>・高い値段で買ってもらいたい</li> <li>・丈夫な部品を作るために努力や工夫、開発していこう ：注文が増えるんじゃないかな</li> </ul>
《組立工場の人々の立場で》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた時間に部品を間に合わせて欲しい ：部品が無くて車が作れなくて困ってしまうよ</li> <li>・注文した数をしっかりと作って欲しい ：決められた数の車が完成できないよ ：お客さんを待たせることになってしまうよ</li> <li>・丈夫で正確な部品を作って欲しい ：故障の原因になってしまう ：雨漏りがしたら大変だよ ：雨漏りは関連工場の責任ではないよ ：組み立て工場の溶接が問題なんだよ ：屋根周りの部品が原因になることはないのかな</li> </ul>

「追究段階」では、「つかむ」段階で立てた話し合いの柱 (A : 車の作り方、B : 自動車工場の様子、C : 消費者のことを考えた車作り、D : 日本の自動車生産) に沿って考えていった。本時では「関連工場の様子」について話し合ったが、これはそれまでの話し合いの中で疑問点として出された問題であった。多くの工場が協力して自動車を生産していることを踏まえ、組立工場や関連工場の人々はお互いにどんな思いで仕事をしているのだろうと、自分たちの考えを出し合う場面であった。ここでは、発話分析のカテゴリーを第 1 表を基に、児童にも理解できる五つにまとめ、どの立場で発言しているのかを意識させた。児童は指で合図を行って、自分が、 : その考えに付け足し、 : この点からその考えに賛成、 : こういう点で疑問あり、 : こういう理由で反対、 : みんなの考えをまとめて、という五つの中の立場で考えを述べるのかを明らかにしながら、話し合いを進めていった。

(5) 本時目標

組立工場及び関連工場が力を合わせて自動車を生産していることを、そこで働く人々の思いを考えながらとらえることができる。

(6) 本時展開

ア 本時のめあてを確認する。

・関連工場ではどのように仕事をしているか。

イ 部品作りについて分かっていることを確認する。

・第1～3次関連工場

ウ 関連工場がどのようにつながっているのか考える。

・方式での注文 生産 納品

エ それぞれの立場で働く人々の気持ちを考える。

・生産の工夫や苦労

オ 資料集で確認する。

カ 本時で分かったことをまとめる。

(7) 成果と課題

ア 個のこだわりを生かした問題解決学習

与えられた問題ではなく、自分が疑問に思い、調べたいとこだわった問題であるために、一人調べの学習の時間は一人ひとりが楽しそうに熱心に取り組んでいる姿が見られた。B4サイズの無地のプリントに、調べたい問題、調べる方法、分かったことや感想等を自由にレイアウトしながら次々につなげていくまとめ方にも慣れてきている。また、調べる過程で生じる新たな問題についても解決を図れるようになってきている。しかし、まだ一人調べの時間を有効に活用してこだわりを深く調べていくには至っていない。資料探しやまとめに時間がかかってしまい、自分なりの調べが完結するまでに多くの時間を必要としてしまう。興味や関心の差、資料を活用して調べる力の差がある中で、それぞれの児童が学習を通して充実感を持てることをねらいとしたわけであるが、児童一人ひとりがより豊かな調べを目指す気持ちを持てるようになることが大事であると再認識した。追究の段階では、自分がこだわったことについては、自信を持って発言する姿が見られた。毎時間ではなくても、誰もが活躍できる場を保障できたという点では良かったと考える。

イ 自分たちの考えのつながりを意識させることを生かした話し合い

話し合い活動では、1学期から相互指名を取り入れる場面を多くすることで、自分たちの力で話し合っていく雰囲気大切にしている。今回、友だちの意見に対して自分の考えはどういう立場なのかを意思表示させたことで、お互いの考えをしっかりと聞いて理解しようとする

態度が身に付いてきていると感じた。また、これまで同じような考えだと発言するのをためらっていた児童であったが、指で合図することで安心感のようなものが生まれてきたのか、多少の違いでも や の合図をして発言しようとする姿が見られた。少人数の学級であるため、発言内容の差はあれ、数多くの意見が出されるようになってきたので、これからも指導を続けていきたいと考える。

五つの立場を設定してきたわけであるが、とを合わせた立場、とを合わせた立場などが見られるようになってきた。しかし、そのことばかりを強く意識させることは、学習の流れを止めることになってしまうので無理のない範囲で行った。取り組んできた中では、のまとめる立場に立つことができる児童が出てきたことは、自分たちの力で話し合いを進めていく上では非常に有効であった。社会科だけではなく、他の教科などでも活用し、一人ひとりが満足しより豊かな話し合いができるような児童を育てていきたいと考える。

4 授業実践3 「自分なりの考えを深める話し合い活動を中心とした展開」

(1) 単元目標

【授業実践1と同じ】

(2) 単元について

本単元では、まず、児童の工場や自動車に対する意識をウェブ図にすることにより、自動車と自分の関係を明らかにすることから始めた。児童の自動車に対するイメージは、便利な面と公害や交通事故等の生活を脅かす面といろいろなとらえ方がある。そこで、「自動車は必要か不必要か」というディベート的な話し合いから、自動車に関する問題意識を明確にしていった。

また、自動車工場を実際に見学することができないので、自動車工場のビデオやインターネット情報を出発点とした。そして、自動車の生産に関わる児童の疑問から、学習課題を設定し、その課題解決を通して、工業の現状や特色をとらえさせたい。特に、自動車工場に携わっている人々の工夫や努力、資源保護や環境保全への取組を中心に、生産者側はもちろんのこと、労働者や地域住民の立場など、いろいろな視点から多面的に工業をとらえていきたい。

また、自動車を始め私たちの身の回りのものが、工業生産によるものであることや、既習の農業や水産業も工業生産された機械を数多く利用していることなどに気付き、私たちの生活が工業生産に支えられ、工業が重要な役割を果たしていることについて考えることができるようにしたい。

このようにして学習したことが知識・理解で終わらず、自分の生活に生かせるように、いつも自分の未来を思い描き、自分が暮らしている社会を構想する力を身に付けることができるようにしたい。

(3) 指導計画（16時間扱い）

- ・オリエンテーション
- ・自動車は増えた方がいいか減った方がいいか
- ・自動車について話し合う
- ・自分なりの課題を見つける
- ・課題に沿って調べ、追求する
- ・調べたことをまとめ、発表する
- ・自分の考えをまとめる
- ・これからの自動車について発表し合う 【本時】

(4) 個に応じた指導について

ア 「児童に寄り添う授業」に関する指導・支援

(ア) 弾力的な単元計画

児童に寄り添う授業というと、教師のねらいがあいまいな単元計画であると思われがちであるが、そこには教師のねらいもあり、単元計画もある。しかし、単元計画は一度立てたものだからといって、計画どおり強引に進めるのではなく、児童の実態によって弾力的に扱うことが大切である。また、単元計画と児童の思いや願いとのズレは、当然浮上してくるが、児童の思いや願いを生かす計画に変更していくことが必要である。

(イ) 問題意識を持たせるために

工場に対しての意識をウェブ図を使って探ってみることにより、児童の根底にある思いや願いを明らかにし、単元計画や学習課題に反映させるよう工夫した。そうすることによって、より児童に寄り添った単元計画になるであろうと考えた。

また、児童の関心事に対する「考えを深める問いかけ」から、児童を揺さぶること、児童の矛盾する考えから話し合うこと等によって、「どうして?」「なぜ?」という疑問を抱かせる。そして、意欲を喚起して問題意識を持たせるようにしていきたい。この問題意識はこの単元を貫いて、調べ学習の原動力となるものとする。

(ウ) 調べ活動の工夫について

調べ活動の計画を自分自身で立て、単元の見通しを持ち、意欲的に取り組ませようと考えた。そうすることによって、調べる喜びを実感させ、調べ活動を主体的なものにしたい。なお、計画は一度立てても調べる内容が別方向に発展したり、こだわりが増えたりして修

正・発展するものであるととらえた。

「調べましょう」といっても調べ方が分からなければ、活動は進まない。いろいろな場合を想定し、図書だけに頼らず、校外調査活動やインターネット検索等の手だてを分かりやすく提示することが主体的な調べ活動へとつながるであろうと考えた。また、インタビューする人物への交渉、工場への電話・ファックスの利用を可能にする手配も大切である。そして、調べ方について考える時間を確保し、「こんな場合はどんな調べ方をすればよいのだろうか」について話し合った。

イ 「話し合い活動の重視」に関する指導・支援

(ア) 課題の共有化について

個々の課題を発表し合い、同じ内容ごとに分類することで課題を確かめ合ったり、共通点や相違点を探したりすることができることにより、学級の学習課題が考えやすくなる。さらに、調べる課題の必然性が明確になり、意欲的に調べ活動ができるようになる。また、児童のこだわっている課題は、いろいろな変化が見られ、個々に違いがある。

学級の学習課題は、疑問を分類する話し合いの中から、自然に生まれてくる。先にも述べたが、児童が疑問を出し合うことで、矛盾する考えや不思議だと思われることに気付く児童がいる。その矛盾や気付きを取り上げ、話し合いを通して学級の学習課題とする。

自分の考えを発言することにより、考えを明確にすることができる。そして、友だちと相互に刺激し合う中で、自分の考えを修正したり、深化させたり思考を発展させたりすることができる。また、共通点や相違点を探る中で課題の共有化ができる。さらに、調べたことを発表した後に話し合いをすることにより、自分の考えをより深めることができると考えた。

その話し合いの形態を次のように考えた。

ペアの話し合い

全体の話し合い活動では、活発に発言する児童が限定され、その他の児童は聞き役になることがよくある。しかし、ペアでの話し合いでは、隣同士で気軽な雰囲気の中で話し合いができ、自分の考えや調べたことを余り抵抗なく話すことができる。全体の話し合いで発言が苦手な児童にとって、とても効果的である。特に全体の話し合いの前段階として有効である。

グループの話し合い

4～5名の少人数での話し合いは、程よ

い緊張感の中でいろいろな意見が出され、意見を比較したり、まとめたりすることができる。司会を立てると全体的話し合いの縮小版になり、話し合いが活性化しやすい。また、課題別や内容別にグループ編成を考えることもできる。

ディベートの話し合い

二つの対立する考え方でどちらが正しいか、二つのグループに分かれて話し合う。視点が明確なので、話しやすく児童の意欲が高まりやすい。自分の考えをより相手に理解してもらうために、考えの根拠になる事柄をもっと調べようと意欲もわきやすい。話し合いの勝敗にこだわらずに、他の意見に耳を傾け自分の考えをより一層深めることが大切である。

提案発表的話し合い

幾つかの提案や発表を基にして話し合いを始める。児童は自分の考えと比較し、共通点と相違点を考えながら聞き、自分の思いや考えを確かなものにする。その際、発表者に対する質疑応答や話し合いの中心的话题がとても参考になる。

自然発生的な話し合い

話し合い活動のとらえ方は、学級会形式のように、一つの議題に沿って児童が司会をして運営するものだけをいうのではなく、教師と児童・児童相互のやりとりから発生した自然発生的な話し合いも多い。

#### (5) 本時目標

- ・「これからの自動車」について話し合うことによって、求められている自動車の姿をとらえることができる。
- ・友だちの発言を聞き、自分の考えと比較したり、さらに自分の考えを発展させたりすることができる。

#### (6) 本時展開

ア 「これからの自動車」について発表し、みんなて話し合う。

- ・代表3～4人が発表する。
- ・友だちの考えについて、自分の意見を述べ合う。
- ・優れている点ともう少し改良した方がよい点を出し合う。

イ 求められている自動車とは、どんなものなのか考える。

- ・発表や話し合いから、これからの自動車に求められるものを書く。

ウ 今日の学習を振り返る。

- ・発表の仕方や聞く態度の自己評価をする。

#### (7) 成果と課題

ア 「児童に寄り添う授業」に関する指導・支援

児童に寄り添うことを中心に考えて単元を計画し、実践してみた。導入時に、ウェブ図を描いて児童の意識を探ってみると、工場や自動車に関する児童の意識は個々に異なり、個人差も大きいことが分かった。工場のイメージは、ほとんど「汚い」「くさい」「うるさい」というとらえ方をしていた。そして、自動車に関しては、「便利」「速い」などの良い面と、「うるさい」「地球温暖化」などの悪い面の両面が出てきた。

さらに、話し合いの問題点を踏まえた調べ活動を展開し、個人新聞にまとめた。その新聞では、「安全性を高める工夫にはどのようなものがあるのか」「排気ガスをどうやって減らすことができるか」などの環境や安全性に関する発表が多かった。

これらの発表内容を取り入れながら、「これからの自動車」について自分なりに考え、画用紙に絵や文章で表現した。今まで学習した内容を盛り込みながら、「こういう自動車があったらいいな」という未来の自動車について発表し合い、学級で話し合った。

児童は、自動車と環境の関係が一番気になっていたもので、終始一貫して環境にやさしい自動車のことが中心となって展開していった。

イ 「話し合い活動の重視」に関する指導・支援  
(ア) ディベート的話し合い「自動車は必要か不必要か」

話し合いの話題として、思考を深める問いかけが重要となる。最初の揺さぶりは、「自動車は必要か不必要か。」という問いかけである。現在、車社会とも言われるほど、自動車がある生活が当たり前になってきている。そのような児童に、自動車は本当に必要か、必要でないかを問いかけてみた。自動車がこの世の中からなくなった生活は考えにくだろうということで、必要：もっと増えた方がよい、不必要：今以上はいらぬ、または減った方がよい、ということで考えさせていくことにした。

必要派11名、不必要派18名の話し合いは、ディベート的話し合いという形式で行った。環境を守るためには、排気ガスをなくした方がよい、だから自動車は減らした方がよい。交通事故が多いので、自動車を減らした方がよい。このような不必要派の意見が多く出された。しかし、自動車に頼って生活している現状も事実である。また、必要性の中に、お



年寄りや障害者の立場に目を向ける児童も出てきた。このような矛盾したところから、課題を見つけさせていった。

(1) 提案発表的話し合い「これからの自動車」  
学習の後半で「これからの自動車」について、自分の考えを図や文章に表し、発表し合い、話し合う場を提案発表的話し合いの形式で行った。新しいクリーンエネルギー車や障害者が利用できる福祉自動車などが中心に発表された。

授業記録にある、C22「他の人が乗るんだったら、車いすの人が運転しなくてもいいではないですか」という意見は、障害者の気持ちを考えていない一言であった。そこで、T「みんなはどう思いますか」と考えさせた。障害者の立場からの自動車の必要性、そして、バリアフリーという考え方からどうなのか。その人の立場になって考えることができるのか。お客様の立場になって考える工業生産の基本的考え方に触れることができればよいと思った。

また、C64「騒音がしないと言っていました、静かすぎて耳の不自由な人に危ないと思うのですが、どうですか」という意見のように、電気自動車だからすべて良いというのではなく、静かすぎて歩行者が気付かないので危ないのではないかと気付いている。これは、多様な考え方ができる一つの表れだと思う。また、これに対しての、C65（光とかで分かるかも・・・）などのつぶやきも見逃すことができない。児童の考えは、連続している。このつぶやきを教師が取り上げることができれば、面白い方向に進んでいく可能性もあったのではないかと考える。

聞き逃したつぶやきの中には、C17（人がいるんだったら、いらないのではないか）がある。自動で回転するシートは、手伝ってくれる人がいればいらないというのである。このつぶやきを取り上げていたら、C22の意見の前に、障害者の気持ちをその立場になって考えることができていたかもしれない。

このように話し合いの中のつぶやきにも、素晴らしい考えや考えるヒントになるものがたくさんあることに気付く。教師の聞く態勢が大切であることを知らされた一コマである。話し合いが進んでくると、これからの自動車として電気自動車などの排気ガスの出ないものが多く発表されたのに、どうして自分の家の自動車はガソリン車なのか不思議に思うのである。学級でも電気自動車はもちろんのこ

と、ハイブリット車の家庭は皆無である。盛んにハイブリット車の宣伝がされていたり、ガソリン車の悪影響はよく分かっていたりするのに、なぜ流行らないのか。ここに矛盾が出てくる。児童は、自動車の利用者の必要性がどこにあるのかということを知られるのである。

このように社会科は、ある一面からでは説明できない社会現象をいろいろな立場や多方面から考え、自分なりの考えを持ち、今後の生活に生かしていけることが一番重要なのである。

第5表 授業記録（T：教師 C：児童）

T	今日は、みんなが考えてくれた「これからの自動車」について、発表してもらいます。全員は発表できないので、代表の人に発表してもらいます。
T	今からカードを配りますので、聞き取りの時に気付いたことをカードに書いてもらいます。まず、発表している内容がよいところを書いてください。次に、改良した方がよいところや質問したいことを書いてください。（課題の提示）
T	では、Mさん発表してください。
C 1	これからの自動車、この新車は、障害者のために作りました。それから安全にも心がけました。障害者の安全のために、車いすに乗ったまま自動車に乗れるようになっていたり、安全のためにエアバッグが付いています。車の中には、カーナビゲーションが付いています。そして、ドアの閉め忘れ等を教えてくれます。車の外からも聞こえます。あと、手で運転できます。ソーラーカーで使えたり、燃料でも走れます。車いすに乗ったまま乗るところには、飲み物などを入れるポケットや他の人が乗れるいすもあります。それから、手すりなども付いています。（主張）
T	カードに良かったところや改良した方がよいところなどを記入してください。（課題の提示）
C 1	質問ありますか。（主張）
C 2	外にいて、カーナビの音が聞こえると言っていました、車の中にいたらうるさくないですか。音が大きすぎて・・・。（矛盾）
C 1	鍵の閉め忘れ等を教えてくれるのだから。（主張）
C 2	ああ、そうか。（うなづく）（主張）
C 3	どうして15万円なのですか。（主張）
C 1	あまり考えていません。（主張）
C 4	ハンドルだけで運転するといいますが、どうやってアクセルとかブレーキなんかをやるんですか。（矛盾）
C 1	レバー。（主張）
T	何のためにそういうものを作ったのか、なぜ足を使わずに手だけにしたのか、理由を言えいいんではないかな。（フィードバックの要請）
C 1	障害者のために作ったから、ハンドルがレバーになっています。（主張）
C 5	もしもその障害者が、手が使えなかったらどうするんですか。（矛盾）
C	えー。（ざわつく）
C 6	手が使えなかったら運転しないよ。死んじゃうよ。（矛盾）（つぶやき）
C 1	・・・（困ってしまう）
T	Mさんは、足が不自由な人のために作ったんだよね。（フィードバックの要請）
C 7	車の中をもっと詳しく描くと、分かりやすくなって良かったと思います。（拡張） （中略）
T	良い点がたくさんありましたが、今度は改良した方がよい点があったら言ってください。こんなふうになっていたら、良かったのと同じものはありますか。（フィードバックの要請）
C 15	急ブレーキをかけたときに、車いすがガタンとか動かないんですか。（主張）
C 1	車いすにはちゃんとブレーキが付いています。（主張）
C 16	変な、運転席についているものは、何ですか。（主

C 1	張) 足が動かない人でも、いすが回って自動で乗れるようになってる。(主張)
C 17	(人がいるんだったら、いらんではないか。) (矛盾)(つぶやき)
C 22	(中略)
C 23	他の人が乗るんだったら、車いすの人が運転しなくてもいいではないですか。(矛盾)
C 33	エンジンのことなんですけど...(途中でさえぎるT)
T	ちょっと待って、みんなは障害者の運転をどう思いますか。(フィードバックの要請)
C 23	自分一人でも乗りたい気持ちがあるんじゃないかな。(主張)
C 24	今のRさんと同じ意見ですが、障害者がお客さんみたいに横に乗るんなら、こんな車はいらんとなってしまう。自分が運転したいのではないかなと思う。だから障害者のために作ったのではないかな。(拡張)
C 25	障害者の人の気分次第で決めればいいんじゃないか。(主張)
T	その気分というか、気持ちを考えてあげるのが作る側ではないのかな。(フィードバックの要請)
C 26	Rさんと同じ考えで、Mさんが障害者のために作ったんだから、やっぱり障害者の人に運転させてあげた方がいい。(統合)
C 27	Rさんと同じ意見で、他の人も乗れるけど、使うのは障害者ということで作ったのだから、障害者も運転できる方がいい。(統合)
C 28	今気付いたんだけど、障害者の人って免許とれるのかな。(主張)
T	福祉自動車で勉強したよね。
C 29	では、Mさん、障害者の人も運転したいということでもいいですね。(フィードバックの要請)
C 1	車いすが入ると言うけど、その絵だと後ろのところが狭いと思うけどどうですか。(主張)
C 30	折りたたんで入れます。(主張)
C 31	それだと閉めるとき大変ではないか。障害者なんだから...(比較的批判)
C 32	(自動でドアが開まればいいよ。)(矛盾)
T	(それでは、値段が高くなるのではないの。)(矛盾)
C 42	(中略)
T	次は、Yさん発表をお願いします。
C 43	この新車は、安全性がよい車です。また、音が静かです。でも環境によい車です。排気ガスを出しません。このハンドルのところからエアバッグが出て、二重のエアバッグが閉まっています。これは車の前のライトで、人の目に優しいライトです。でこぼこしたところに行くときは、タイヤの中にあるバネみたいなのがガタガタしないようになっています。トンネルや暗いところに入ると、勝手にライトがつきます。前と後ろの部分が衝撃を固くしないように、衝突で運転手が吹っ飛ばないように柔らかくなっています。(主張)
T	まず、いいところをカードに書いてください。
T	では、いいところから発表してください。(フィードバックの要請)
C 43	エアバッグを二重にしたところがいいと思います。(主張)
C 44	目に優しいライトがあって、人にやさしいと思います。(拡張)
C 62	(中略)
C 63	もう少し、リサイクルとか、安全性を考えた方がいいと思います。(比較的批判)
C 42	リサイクルはどこをされているのですか。(フィードバックの要請)
C 64	考えていません。(主張)
C 65	騒音がしないと言っていましたが、静かすぎて耳の不自由な人に危ないと思うのですが、どうですか。(比較的批判)
C 42	(光とかで分かるかも...)(考えてないよ。)(主張)
C 66	そこまで考えていません。(主張)
C 67	車の前の方が柔らかくなっていますというけど、吸収しないと意味ないと思います。(比較的批判)
C 68	交通事故の時、危ないから柔らかい方がいいと思う。(拡張)
T	はね返りすぎて危ないから、後ろも柔らかい方がいい。(主張)
T	柔らかくしてはね返りすぎると心配なんだね。このところを調べて書いていた人に訊いてみよう。(フィ

C 69	ードバックの要請) 低反発で衝撃を吸収するバンパーが良いそうです。(主張)
C 70	でこぼこ道でも大丈夫なタイヤの、バネみたいなものとはどんなものですか。(フィードバックの要請)
C 71	(バネって言うてるでしょ。)(主張)
C 42	バネみたいなものです。それ以上考えていません。(主張)
T	それでは時間ですので、今日の反省だけ書いて終わります。

## 研究のまとめ

現行学習指導要領の小学校社会の改善の基本方針の中には、「網羅的で知識偏重の学習ではなく、学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習を一層重視することを示している。そのために、社会の出来事や事柄、地名や年号などの細かな知識を覚える授業から、児童一人ひとりが観察・調査、体験、表現など具体的な活動を通して、社会的現象の意味や働きなどを考えたり自分の意見を述べたりする授業への改善を求めている。」とある。

課題発見や調査のまとめなどにおける話し合い活動は社会において重要な学習活動である。児童の発言をカテゴリーに分類し、授業分析を行うことは、指導者の力量を高めるための有効な手段であることを改めて認識することができた。また、指導者がそういった視点を踏まえて授業に臨むことによって、児童にもフィードバックがなされ、発言の的確な評価に結びつくことが分かった。発話分析を取り入れた教科指導法が個に応じた指導に結びつくことが実践を通して明らかになった。発達段階や実態に即してどのような話し合いができればよいかを検証していくことも今後の課題である。

また、ウェビングやノート指導、ワークシートの工夫や自己評価などもあわせて活用することにより、より一層個に応じた指導を進めることができると考える。

### [調査研究協力員]

綾瀬市立北の台小学校	守矢 徹
鎌倉市立西鎌倉小学校	中村 貴美子
箱根町立箱根小学校	養島 幸男

### [助言者]

鎌倉女子大学	高垣 マユミ
--------	--------

### 引用文献

高垣マユミ 2005 『授業デザインの最前線 理論と実践をつなぐ知のコラボレーション』 北大路書房 p.8